

JR加太駅舎がリニューアル

令和4年4月1日に、JR加太駅舎が、歴史観光資源の情報発信や地域のにぎわい交流の新たな拠点として生まれ変わります。



問合せ 政策推進課交通政策グループ (☎84-5066)

JR加太駅は、明治時代に開業されました。現在の駅舎は、昭和11年に建てられたもので、木造駅舎100選にも選ばれ、SLがブームになった昭和40年代には、関西本線随一の難所「加太越え」に挑む蒸気機関車の雄姿を撮影するため、多くの鉄道ファンが降り立った駅舎でもあります。

この駅舎を、令和2年3月に西日本旅客鉄道株式会社から無償で譲り受け、当時の姿とにぎわいを取り戻すため、地域の皆さんとともに改修を行ってきました。

駅舎内には、誰でも気軽に集える憩いの場として、「加太サロン」を新設しました。ぜひ、ご利用ください。



昭和40年代の駅舎



改修前の駅舎

施設の概要

待合室

待合室は、JR利用者の待合室としてだけでなく、コミュニティバスの乗客の待合室、地域のイベント等での集会場など多目的に利用できるよう、加太サロンとの統一感があるつくりとなっています。

公衆トイレ

公衆トイレは、清潔、快適に使用できるように男女別の多目的トイレと男子用小便器ブースを設置しました。多目的トイレは、車椅子利用者だけでなく、高齢者や小さな子どもを連れた利用者も快適に利用できるユニバーサルデザインとしています。



オープン



地域活性化拠点として

新駅舎は、加太や亀山の特色を考慮して作られていますので、地域の方たちが、地域への愛着と誇りを感じられる場所になってほしいです。

今後は、駅舎から加太の良いところを広く情報発信していくなど、加太を盛り上げる活動・加太の魅力伝える活動を続けていきます。

加太駅舎活用委員会 委員長 山崎 一博さん



地域の新たな拠点として、とても良い機会をいただきました。これをきっかけに、さまざまなイベントを開催して、地域住民の交流やつながりを深める場所となるように、また地域内外を問わず加太の魅力や情報を発信する拠点となるように、地域一丸となって取り組んでいきたいと思っております。

加太地区まちづくり協議会 会長 森下 勇司さん



加太サロン(旧事務室)

既設の家具など利用可能なものは塗装等を行って再利用しつつ、新たに入口の建具、カウンター、キッチンおよび収納を設置しました。また、待合室と加太サロンの間のカウンターの窓も親しみのあるしつらえにするとともに、地域の皆さんが展示できるコーナーを整備し、地域の子どもたちと共同制作したアートパネルも設置しています。

【加太サロンの利用案内】

開所時間 午前10時～午後4時

休所日 月曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)



テーブルやイス、アートパネルなどに市産材を使用しています。

アートパネルを制作した子どもたちに話を聞いてみました

「アートパネルを見て、他の地域から来た人に加太の良さを知ってもらいたいです」、「自分が好きな加太を描きました。これを見た人にも好きになってもらいたいと思って作りました」と、アートパネルへ込めた思いを話してくれました。



絵や文字を下書きして、電熱ペンで木材に焼き付けます。

